※令和４年度以降入学生用

学校番号	１００１

令和５年度　芸術科　美術工芸

教科	芸術	科目	工芸Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	工芸Ⅰ（日本文教出版）						
副教材等							

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・さまざまな素材に触れ、制作を体験することで「ものづくり」のよろこび、完成させる達成感を感じ取る。
・自然や身近な生活、使う者の心情などから心豊かな発想力を養い、鑑賞する。
・用途と美しさを考えて構想を練り、制作方法を吟味し、創意工夫をして制作する。
・作品制作だけでなく、材料や用具を正しく使用し、積極性や提出物など毎回の授業を大切にする。

２　学習の到達目標

工芸の幅広い創造活動を通して美的体験を豊かにし、生涯にわたり工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするために工夫する態度を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、工芸の伝統と文化についての理解を深める。
（１）材料の特性と用具の使用方法を理解して、必要な技能と表現方法を身につけている。工芸作品の表現の工夫や美しさ、働き、伝統文化についての理解を深めている。
（２）感性や想像力を働かせ、心豊かな発想をし、生活の中で使用できる機能や美しさなどの目的意識をもって作品の構想を練ることができる。
（３）生活及び社会における工芸の働きに関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	材料の特性と用具の使用方法を理解し、創造活動を通して必要な技能を身に付け、表現方法を創意工夫して制作している。工芸作品の表現の工夫や美しさを感じ取り、生活や社会を豊かにする工芸の働きや工芸の伝統文化についての理解を深めている。	感性や想像力を働かせ、自然や素材だけでなく、生活環境や使う人の心情から心豊かな発想をし、機能と美しさなどを考え作品の構想を練っている。	幅広い創造活動を通して喜びを味わい、生活及び社会における工芸の働きに関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	手びねりのカップ(陶芸)	・デザイン ・成形 ・釉薬掛け ・鑑賞	a：土の特性や陶芸の技法を理解し、可塑性を生かした工夫や装飾などを効果的に表現する。 b：どのような場でどのような人が使用するかを想像し、機能と美しさを考え創造する。カップに求められる条件を考え、使う人の立場に立って発想・造形を行う。 c：どのような場でどのような人が使用するかを想像し、機能と美しさを考え創造する。より良い作品作りを追求する。	作品	作品	アイデアスケッチワークシート
	かご(籐工芸)	・デザイン ・成形	a：編組工芸全般の知識と素材の特性を理解し、編み方や造形性を生かした表現をする。 b：籐かごの用途や造形的特長を考え、機能と美しさを考え創造する。 c：どのような場でどのような人が使用するかを想像し、機能と美しさを考え創造する。より良い作品作りを追求する。	作品	作品	アイデアスケッチワークシート
	高校展鑑賞	・美術館にて作品を鑑賞する	b：様々な作品に関心を持ち、作者の意図や造形的な美しさを理解するとともに、自分の制作へとつなげる。		レポート	

※令和４年度以降入学生用

後期	カトラリー（木工）	・デザイン ・制作	a: 木という素材の特性や、カトラリーに求められる機能や使いやすさを考えて構想を練る。 b: 桜材の特性と制作方法を理解し、手順や技法を吟味して創意工夫する。 c: どのような場でどのような人が使用するかを想像し、機能と美しさを考え創造する。より良い作品作りを追求する。	作品	作品	アイデアスケッチ ワークシート
	ステンドグラスの鏡（ガラス工芸）	・デザイン ・制作 ・ハンダ付け ・鑑賞	a: ガラスカット・テープ・ハンダ付け等の工程を理解し、安全で効果的に道具を使用して制作する。 b: 板ガラスの特性や条件、制作工程を考え、全体のバランスに気を配り構想を練る。 c: どのような場でどのような人が使用するかを想像し、機能と美しさを考え創造する。より良い作品作りを追求する。	作品	作品	アイデアスケッチ ワークシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度